

第10章 まとめ

本調査では、まず北東アジア諸国（日本・ロシア・中国・韓国・北朝鮮・モンゴル）間を取りまく国際フェリーネットワークの現状を整理した。その後、青森港とロシア極東地域港湾が国際フェリーで結ばれた際に、青森からロシアに向けての主要輸送貨物となる可能性が高い、中古車輸出について、その動向を把握し、先進事例として富山県の例を調査した。加えて、青森港の背後圏となり得る北東北3県及び宮城県を対象とするアンケート調査により中古車輸出の実態と今後の貨物需要を把握した。こうした周辺状況の調査の後、ウラジオストク及び青森市において、関係者間の意見交換会を実施し、現状とフェリー航路開設の課題を明確にした。

北東アジアにおける国際フェリーは、韓国と中国を結ぶ航路は比較的多いが、それ以外の地域を結ぶものはまだ極めて少ない状況にある。特に、ロシアとを結ぶ国際フェリーは少ないのが現状である。こうした中、青森港がウラジオストクをはじめとするロシア極東地域港湾と結ばれば、北東北を中心とする東北地域全体の対ロシア交流の活性化が図られるものと期待できる。

現在日本とロシアを結ぶ国際フェリーの主な貨物は中古自動車や中古建機である。ロシア極東地域において中古自動車、中古建機の需要はまだまだ高い。中古自動車に対する関税の引き上げが行われて、中古自動車の輸入には想像したほど大きな影響は出ておらず、むしろ高級車へのシフトによる拡大傾向が見られるほどである。

また、ロシア極東地域の至る所で建設工事が見られるようになり、今まさに建設時代に入っている中で、中古建機の需要も高まっている。また、サハリンプロジェクトをはじめとするエネルギー開発プロジェクトの進展もその状況に拍車をかけている。

こうした中、青森港の背後圏として考えられる北東北3県及び宮城県における中古自動車の取扱量は十分にあり、かなりの供給量が期待できる。ロシアを北東北及び宮城県の巨大な中古自動車市場として捉え、輸出の拡大を図っていく可能性は十分にあると言えよう。

この地域では、現状でも対ロシア中古車輸出は行われているが、新たに対ロシア貿易を発掘していく仕組みも求められる。中古車については、輸出あるいはロシアからのバイヤーが買いやすいシステムを作り上げることが必要である。そのためには、オークションへの参加を容易にする仕組みや秩序立った港湾経営が望まれる。

また、大量の中古車が輸出された状況の中では、今後その部品市場の急速な拡大が見込まれている。今回のアンケート結果を見る限り、青森港の背後圏と捉えられる北東北地域には、中古車及びその部品の供給力は十分であると判断できる。

周辺調査に基づき、青森とウラジオストク間にフェリー航路を開設するというテーマで、日本、ロシア、中国の関係者間で意見交換を行い、今後の対応を明確にすることができた。国際フェリー航路開設のプロジェクトはロシア側及び中国側に歓迎され、大きな関心事とな

った。さまざまな課題はあるが、いずれも対応が可能なものである。こうした具体的なテーマで意見交換を行ったことで、フェリー開設に向けた最初の一步を踏み出したと言えよう。

この会議を通じて、今後の対応の方向性が明確となった。ウラジオストクにおける会議でも、青森における会議でも関係者から、より詳細な調査の実施が求められた。すなわち、FS調査（事業化・企業化調査）である。航路開設を実現するためには、次のステップとして、詳細な貨物の内容とその量、旅客数をはじめ、具体的な船型、最適な輸送コスト、採算性、周辺地域への経済波及効果などの調査が必要であることが強調された。それに加えて、構造改革特区制度の利用などの需要を喚起する方法も十分に検討する必要がある。

国際フェリー開設に向けた取り組みは以下の3段階にまとめられる。

第1段階：ロシア側の感触を探り、ロシア側の問題点を理解すること

航路開設に向けての要件を探ること

背後圏を設定し貨物需要量を算定すること、

構造改革特区制度を利用するなど）需要喚起案を提案すること

第2段階：FS調査（事業化・企業化調査）を実施すること

地元の熱意を盛り上げていくこと

トライアル運航を実施すること

第3段階：船社回りを行うこと

関連施設の整備を行うことが挙げられる。

現在は第1段階にあると言える。このプロジェクトを実現させるためには、次の第2段階に進まなければならない。

そこで、青森～ウラジオストク間国際フェリー航路の開設に向けての今後の取り組みとしては、まず、FS調査に重点を置く必要がある。その際、航路を利用する潜在的な貨物・旅客需要の構造と量の把握を十分に行う必要がある。今後調査すべき内容をまとめると以下の通りとなる。

需要調査

①輸出貨物品目にかかる調査

- ・ 中古車、中古建機：背後圏、主要利用港、日本全体の中古車輸出動向、ロシアの中古車輸入動向
- ・ SLB：日本欧州間流動貨物のSLB輸送への転換可能性、韓国欧州間流動貨物のうちSLB輸送に転換した貨物の内容調査
- ・ ロシア人の生活水準向上に伴う輸出品：可処分所得の向上と購入物資の相関からの輸出品目の推定

②輸入貨物品目にかかる調査：ロシア沿海地方、ハバロフスク地方、中国黒龍江省における大型プロジェクトの動向把握

③旅客需要調査

- ・ 東春フェリーを含む先進事例の旅客輸送動向
- ・ 日本及びロシアにおける経済開発特区の動向

④関連産業の成立にかかる調査：伏木富山港等先進事例地の事例収集

⑤対ロシア自家用車乗り入れ観光需要調査：実現可能性の評価

⑥経済開発特区設置についての検討：経済開発特区の性格と効果についての検討

プロジェクト全体コストの検討

プロジェクトの採算性の検討

事業実現段階計画の検討

こうした調査が実現の可能性の裏づけとなる。航路開設に向けては、調査に加え、地元の熱意を盛り上げ、トライアル運航の実施に向けた準備を進めることが必要である。そして、意見交換会を通じて構築された、日本(青森)・ロシア・中国のネットワークをさらに強化し、3者が一体となって、本プロジェクトに取り組んでいくことが望まれている。

青森とウラジオストクを結ぶ国際フェリー航路が、青森をはじめ、日本及び周辺各国の活性化に向けた、真の人的・経済的交流の架け橋となることが期待されている。